

令和3年度カワウの繁殖状況と対策

とりまとめ：加地弘一

これまで、山梨県におけるカワウの個体群管理は山梨県カワウ管理指針に基づき、カワウのねぐらコロニーを甲府市下曽根地先（以下、下曽根コロニー）に封じ込め、下曽根コロニーでドライアイスによるふ化抑制や擬卵置き換えによる繁殖抑制を行ってきた。そのために、関係機関が連携してねぐらやコロニーが他所に拡散しないよう監視を行い、下曽根コロニー以外に拡散した場合は早期に紐張り対策などを行いカワウを下曽根コロニーに戻してきた。2019年度に下曽根コロニーの下流にある山梨県畜産酪農技術センター（以下、畜酪セ）敷地内でカワウが繁殖したとの情報があり紐張り対策を行ったが、対策実施時には繁殖がほぼ終了していたため複数の雛が巣立ったと考えられた。翌2020年度には下曽根コロニーでの繁殖が全く行われず、繁殖は畜酪セ敷地内のみで行われたため、畜酪セの敷地内で主に巣を撤去する方法で繁殖抑制を行った。2021年度も下曽根コロニーで繁殖は行われず、畜酪セ敷地内でも繁殖は行われなかったが、カワウは畜酪セ周辺の東京電力送電線の鉄塔をねぐらとし繁殖も確認された。鉄塔は東京電力により管理されており立ち入ることができないため、カワウに対して夜間にレーザーポインタや強力ライトを照射する方法での追い払いを実施した。

結果の概要

下曽根コロニーと畜酪セ、東電の鉄塔の位置を図1に示す。カワウの営巣は鉄塔Aから鉄塔Hの8本の鉄塔で確認された。最も北側の鉄塔Fと南側の鉄塔Hの直線距離はおよそ1.36kmであった（地理院地図の距離ツールにより計測）。

鉄塔のカワウは2021年3月18日に鉄塔Cで3羽、鉄塔Dで12羽が確認された（図2）。4月21日までは対策は実施せず2～8日間隔で観察のみを実施した。対策直前の4月21日には鉄塔Aに18羽、鉄塔Cに35羽、鉄塔Dに24羽、鉄塔Eに24羽、鉄塔Fに5羽、と5本の鉄塔を106羽が利用した。レーザー等の照射対策を開始した4月26日は合計で137羽と最多であったが、6月14日までに1～7日おきに合計28日間対策を行った結果、6月19日以降はカワウ確認されなくなった。なお、対策の経過とともに、カワウはねぐらにする鉄塔を変化させていった。なお、下曽根コロニーのカワウ個体数は、4月21日に83羽だったが、対策による鉄塔個体数の減少に伴い増加し、7月19日は235羽であった。

レーザー対策前後のカワウ個体数を観察した結果を表1に示す。カワウは対策直後鉄塔Fの1個体を除いてすべてが鉄塔から飛び去った。その後、1時間経過しても1個体に戻ったのみで戻ることはなかった。対策20時間後にはすべての鉄塔でカワウが確認されたが、その個体数はどの鉄塔も対策前よりも大幅に少なかった。

期間中の鉄塔別の営巣状況を図3に示す。営巣数のピークは5月12日の22巣であった。調査期間中の総営巣数は不明であるが、各鉄塔の最多営巣数を合計したところ35巣の営巣が確認された。なお、調査期間中にヒナのふ化は1羽も確認されなかったことから、レーザー対策は鉄塔での追い払いに有効であると考えられる。なお、レーザーポインタは消費生活用製品安全法による特別特定製品に指定されていることから、使用に際しては同法の技術基準に適合する製品を使用する必要がある。



図1 対策を行った鉄塔の位置

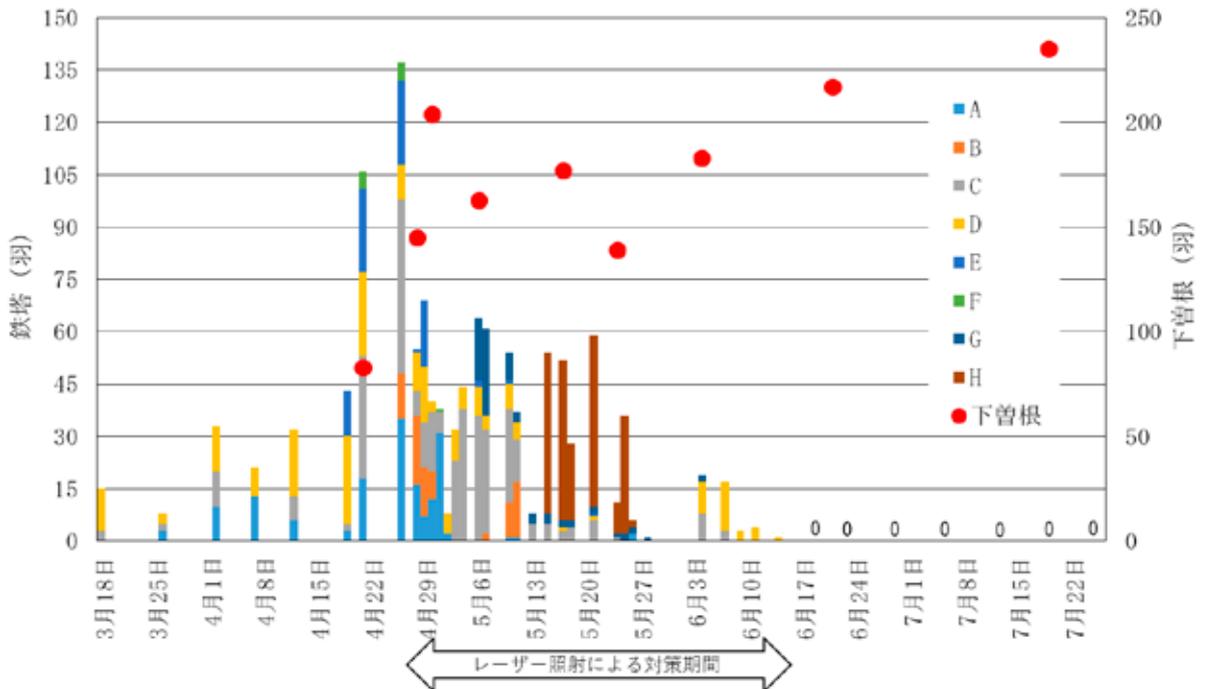


図2 鉄塔別のカワウ個体数と下曽根コロニーのカワウ個体数

表1 レーザー対策前後のカワウ個体数 (2021年4月26日実施)

鉄塔	対策前	対策直後	対策1時間後	対策20時間後
A	35	0	0	7
B	13	0	0	7
C	50	0	0	7
D	10	0	0	4
E	24	0	0	10
F	5	1	2	2

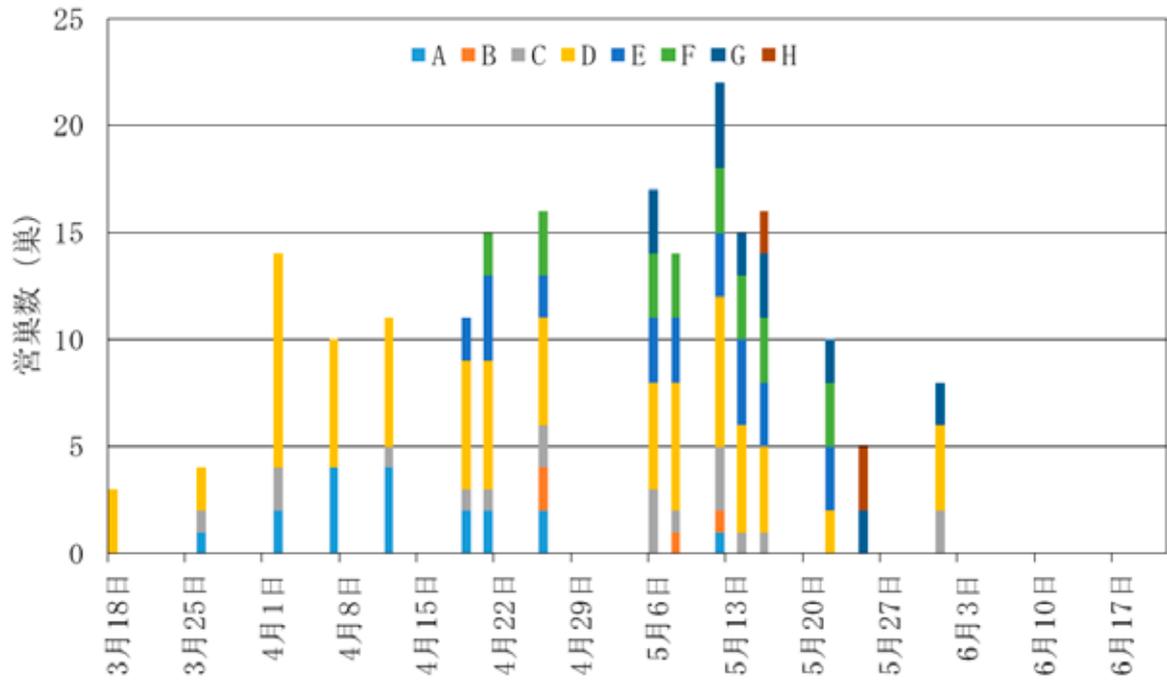


図3 調査期間中の鉄塔別の営巣数